

イスパロクト® 静注用 血液凝固第VIII因子活性測定の手引き

イスパロクト®投与後の血液凝固第VIII因子 (FVIII) 活性を凝固一段法で測定する場合、活性化部分トロンボプラスチン時間 (aPTT) 試薬の種類によっては、測定結果が見かけ上、低値を示すことがあります。適切なaPTT試薬を用いて測定してください。

1. 自施設でFVIII活性を測定する場合

表1に○で示したものは、イスパロクト®投与後に期待値に対して±30%の範囲内の測定結果が得られたaPTT試薬と測定装置の組み合わせであり、▲で示したものは、期待値に対して低値を示す(−30%を下回る)測定結果が得られた組み合わせです。ーは、弊社が測定結果を有していないことを意味します。

表1：イスパロクト®投与後のFVIII活性測定結果(2022年5月時点)

試薬名	販売会社	測定装置	
		ACL TOP550	CS-5100
トロンボチェックAPTT-SLA ^{1,2)}	シスメックス株式会社	○*a	○*c
データファイ APTT (Actin) ²⁾	シスメックス株式会社	—	○*c
トロンボチェックAPTT ^{1,2)}	シスメックス株式会社	○*a	○*c
コアグピア APTT-N ^{1,2)}	積水メディカル株式会社	○*a	○*c
データファイAPTT (FSL) (Actin FSL) ²⁾	シスメックス株式会社	—	○*c
ヒーモスアイエルシンサシルAPTT ^{1,3)}	アイ・エル・ジャパン株式会社	○*b	▲*b, d
STA試薬 セファスクリーン (APTT) ²⁾	富士レビオ株式会社	—	○*c
パトロンチン SL ³⁾	シスメックス株式会社	—	○*b
トロンボチェックAPTT (S) ^{1,2)}	シスメックス株式会社	○*a	○*c
コアグサーチAPTT ¹⁾	株式会社エイアンドティー	○*b	—
データファイAPTT (FS) (Actin FS) ^{1,2)}	シスメックス株式会社	○*a	○*c
STA試薬シリーズAPTT ^{1,2)}	富士レビオ株式会社	▲*b	▲*c
ヒーモスアイエルAPTT-SP ³⁾	アイ・エル・ジャパン株式会社	—	▲*b
PTT LA 試薬「FR」 ^{1,2)}	富士レビオ株式会社	▲*b	▲*c

2. 自施設でFVIII活性を測定しない場合

表2に検査センターにおける凝固一段法で使用されているaPTT試薬を示します(2022年5月時点)。

なお、下記以外の検査センターをご利用の場合は、貴施設を担当しているノボ ノルディスク ファーマの担当者へご相談ください。

表2：検査センターで使用している試薬⁴⁾

検査センター名	aPTT試薬名	測定装置	測定結果
エスアールエル	ヒーモスアイエルシンサシルAPTT	ACL TOP550	○*b
ビー・エム・エル	パトロンチンSL	CS-5100	○*b
LSIメディエンス	ヒーモスアイエルシンサシルAPTT	ACL TOP550	○*b

*a FVIII濃度0.6~0.9 IU/mLにおける測定結果

*b FVIII濃度0.2~0.9 IU/mLにおける測定結果

*c FVIII濃度0.03~0.9 IU/mLにおける測定結果

*d FVIII活性の期待値に対して69~72%の測定値を示した。

最新情報は当社ホームページ(www.novonordisk.co.jp)等にてご確認ください。

施設で使用している試薬・測定装置を予め確認し、
適切な試薬・測定装置を選択してFVIII活性測定を行ってください。

- 1) 311853試験 Evaluation of recovery of turoctocog alfa pegol spiked into congenital haemophilia A plasma using aPTT reagents specific for Japan (社内資料)
- 2) Evaluation of recovery of turoctocog alfa pegol spiked into congenital haemophilia A plasma using aPTT reagents and chromogenic assay specific for Japan (社内資料)
- 3) Hillarp A et al.: Haemophilia 23 (3) : 458-465, 2017
- 4) aPTT reagents and analysers of commercial laboratories in Japan (社内資料)